



レスキューストックヤード

## 6号

2002年2月発行

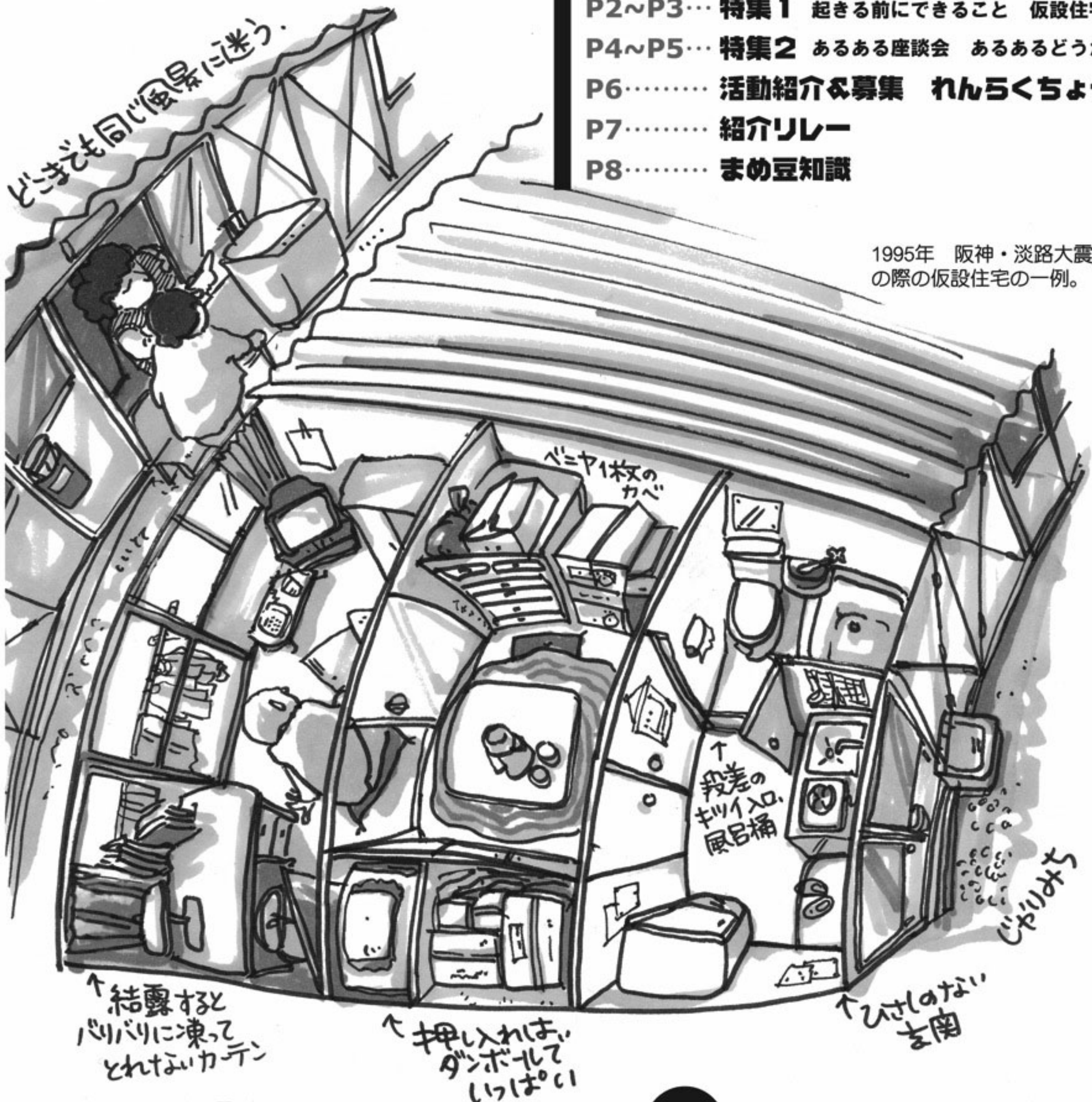
# あるある



## CONTENTS

- P2~P3... **特集1** 起きる前にできること 仮設住宅編
- P4~P5... **特集2** あるある座談会 あるあるどうだった?
- P6..... **活動紹介&募集** れんらくちょう
- P7..... **紹介リレー**
- P8..... **まめ豆知識**

1995年 阪神・淡路大震災  
の際の仮設住宅の一例。



## あるあるが欲しい。

RSY会員に配っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

TEL

052-783-7727

URL

<http://www.rsy.npo-jp.net/>



■レスキューストックヤードって?

災害時(レスキュー)に役立つ「人・物・情報」を、平常時から蓄える(ストック)場所(ヤード)にしたいという意味。



## 避難所の質問あれこれ

インタビューー 小川（編集委員）  
回答者 浅井 隆さん（東山学区防災副会長）

**小川** 避難所に常備してある物は何があるんですか？  
**浅井** 毛布、ブルーシート、あと軍手などがあります。  
**小川** 量的には充分あるんですか？  
**浅井** 足りないのが正直なところ。想定される量の10分の1くらいしか集まっていないのが現状。地域的に地震みたいな広域災害を想定していないから、どうしても蓄えとしては少なくなってしまう。  
**小川** どの避難所もそうなんですか。  
**浅井** 避難所のマニュアルっていうのが実はないんですよ。東山学区では毎月積み立てて予算を組んでいるから補充できるようにはしていますが、ボーイスカウトなどは備品がすごく充実しているの、そういった団体と協力できるかと思っています。「防災」ってすごくキーワードだと思うんですよ。普段は繋がりが無くて「防災」という目的があると一緒にやれる。  
**小川** なるほど。新しくシステムを作るというより既存の団体などと協働していくという姿勢なんですね。  
**浅井** そうだね。そっちのほうが無駄がないね。

**小川** 避難所の鍵ってどこにあるんですか？  
**浅井** 管理をお願いしている方が12～3人います。  
**小川** そういことは住民の皆さんは知って見えるんです？  
**浅井** 知らない人が多いでしょうね。こういうことはこちらから訴えてもあんまり広がらないんです。5年計画くらいでこれから勉強会みたいなのを開いて、みんなが自主的に動く姿勢を作っていきたいですね。  
**小川** 障がい者が避難されるケースが考えられますが、そういった想定はされていますか？  
**浅井** 障がい者の方の受け入れは今後の課題。でも余り細かく想定して想定外のことに対応できなくなるのが怖いとも思っています。みんなが助け合う姿勢ができていて、またいろいろ解決できると思うんです。  
**小川** なるほど。今後の方向性としては地域住民との繋がりを広めていく方向ですか？  
**浅井** そうですね。どんな団体があるのかだとか、掘り起こせばすごくいろんなものがあると思う。それらを有効活用していくことが課題ですね。

インタビューー 小川（編集委員）  
回答者 名古屋市消防局防災室

### ■物資について

#### Q 何があるの？

名古屋市では避難所だけの備品と定義せず、地域防災計画上の備蓄物資として乾パン、飯缶詰、粉ミルク等の非常食糧や、毛布、上敷などの生活用品、仮設トイレなどを備蓄しています。（数量等の内訳は名古屋市地域防災計画参照）

#### Q 量は？

市全体の備蓄量は被害想定による被災者数を基にして、40万食としています。以前は備蓄倉庫や区役所・支所だけの集中備蓄でしたが、現在は小中学校などの避難所にも備蓄することで「集中型」と「分散型」の二つの形にしています。主な小中学校には、乾パン256食（128食入×2箱）、毛布50枚（10枚入×5箱）を備蓄しています。

#### Q 独自に用意してある所もあるの？

はい。中村区大宮町など地域で独自に防災倉庫を設置して備蓄している地域もあります。

#### Q 内容は増やせるの？

被害想定が見直されると、備蓄総量の増加などを検討し直します。また、食糧や日常生活用品に関しては、その時に必要な物資を送ってもらう「供給協定」を色々なところと結び、柔軟に対応できるようにしています。

#### Q 避難所でないと物資は買えない？

いいえ、避難所での食品の供給をしたり、炊事ができないなどの被害を受けた人には食糧の配給なども行います（東海豪雨水害時には西区の芦原町・こも原町で配給を実施しました）。

### ■その他

#### Q 動物は入れるの？

アレルギーや衛生など非常に難しい問題が多く、なかなか結論を出すことができませんが、東海豪雨水害時には逃げたりしたペットなどを動物愛護センターで一時的に預かったり、動物病院で一時的預かりをしたことがあります。

#### Q 障がい者や老人に対して何か特別なことを考えているの？

「地域防災計画」では、災害弱者の方々が避難生活できるように、簡易式車椅子用トイレや、簡易式スロープの設置、介護を要する方への保健師やヘルパーの派遣などを、実態調査を行った上で実施することが決められています。

また、今ある福祉施設のうち、設備面で条件の整っている施設を「災害弱者用避難所」として活用しています。

#### Q 盲導犬は入れるの？

今年10月に施行された「身体障がい者補助犬法」によって、盲導犬も入れることになりました。また、肢体の不自由な方が使用する「介助犬」や、聴覚障がい者が使用する「聴導犬」も含まれています。ただし、使用者にはその犬が「盲導犬」・「介助犬」・「聴導犬」といったことが分かるようにすることが義務付けられています。

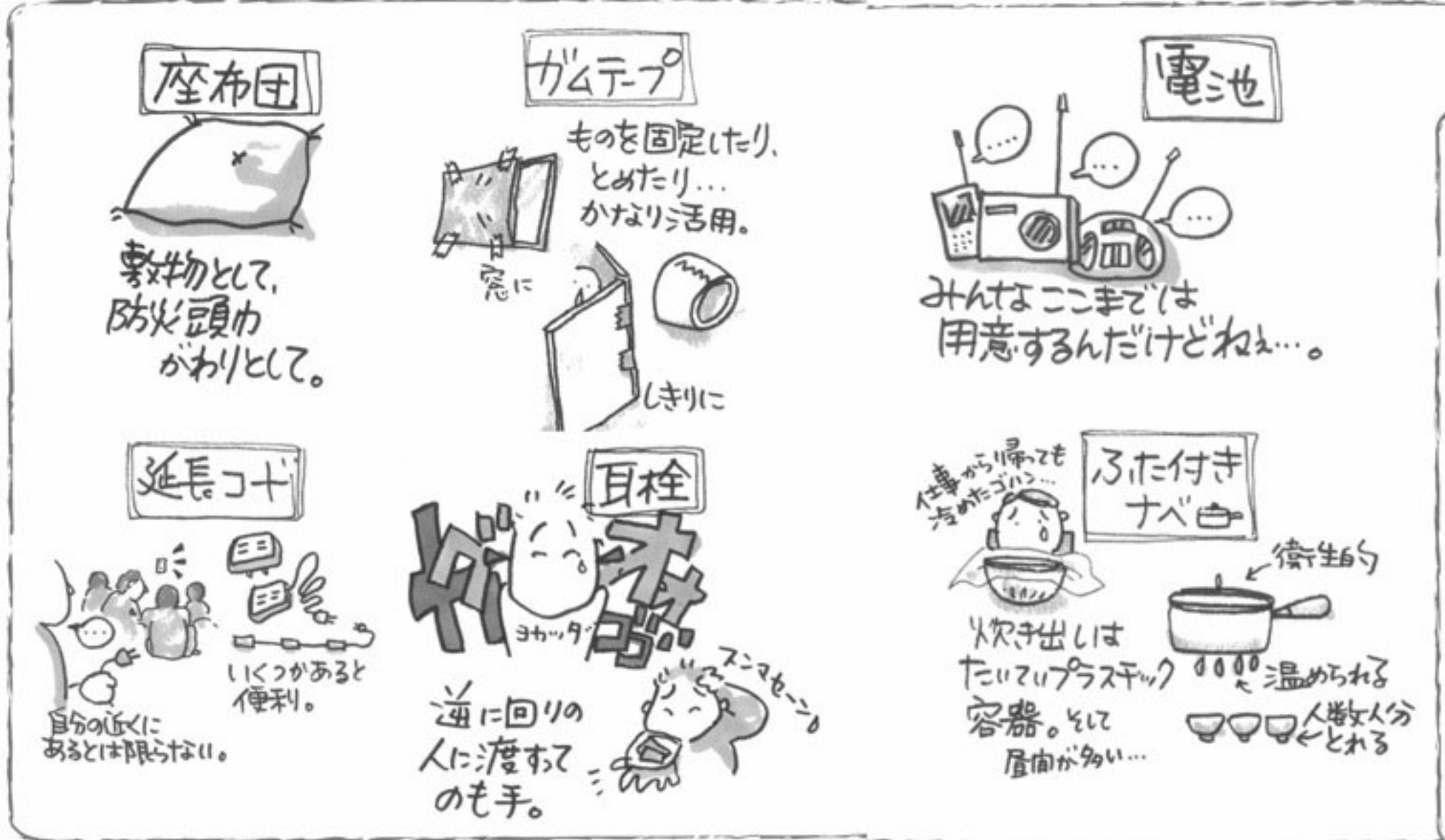
今回防災室には直接伺う機会が作れず、メールとお電話で質問に対する回答を頂きましたが、どちらもとても丁寧にわかりやすく応えて下さいました。取材して感じたことですが、ある程度は規則できっちりしつつ、災害時には現状をきちんと分析し、適切な対応をしていくというのが理想的だなと思いました。また、市民1人1人が自分から動く姿勢が大切のように思いました。みなさんも自分の避難所に指定されているところがどのような対策をしてくれているのか、聞いてみてはいかがでしょうか？

取材：広田・橋本・北鬼江・河津

## 避難所ってどんなかんじ？

被災者の方に聞きました。

### Q 避難所生活で大変だったことって何？



## 大震災を想定して、日頃からできることを考えておこう！

何より大切なのは備えてある物をうまく「有効活用」すること。そのための経験や知恵をつけておくことの方が実は手っ取り早いのでは？

★一つのものであれこれアレンジする  
★もし…だったら？と常にいろいろなことを考えるくせをつける

★頭で「覚える」のは大変だから、「遊び」ながら体に覚えさせる。

火のおこし方、テントの立て方、暖の取り方…キャンプに行こうか！



**仮設住宅**：災害救助法に基づき、災害のため住家が滅失した被災者のうち、自らの資力では住宅を確保できない方に対し、簡単な住宅を仮設し、一時的に居住の安定を図ることを目的とするもの。（給与期間＝2年以内）

**ふれあいセンター**：仮設住宅内でのコミュニケーションがとれない、誰にも気づかれずに亡くなる孤独死など、様々な問題があり、1995年の9月に被災者のコミュニケーションの場やボランティアの活動の場として50戸以上の団地につくられた。

## 仮設住宅って どんなかんじ？ —神戸の場合—

家が全壊してしまうと、親戚の家や県外などへしばらくの間身を置くこととなりますが、その中の選択肢の一つとして仮設住宅があります。

災害時に一時的なモノとして設置されるものですが、いったいどんな感じなのでしょう。愛知県の体制をお聞きするとともに阪神・淡路大震災ではどうだったのかを紹介していきます。

電車で1時間以上かかる仮設もある。

最大で1,000戸以上の仮設もあった→



←高齢者・障がい者用の「地域型仮設住宅」。2階建てになっている



多くの仮設住宅はこの形。

被災者の方に聞きました。

Q 仮設住宅生活で大変だったことって何？ 取材：広田・北鬼江・河津・竹内



- ・熱が伝わりやすい（熱さも寒さも。熱いときは室内が40度にもなる）
- ・ひさしがないために雨が降り込む
- ・壁が薄いため電話の話し声さえ聞こえる
- ・段差が多いので、転んだりあがるのに大変
- ・虫が這いあがってくる
- ・水が流れ込み、湿気があがってくる
- ・じゃりみちなので車椅子などは大変
- ・子どもの遊び場がない

- ・抽選なので知り合いと離ればなれ。隣は誰がいるのかわからず人間関係が難しい
- ・自分の元住んでいたところより遠くて、移動にお金がかかる
- ・周りの人が引っ越ししていった空き部屋が目立ち、寂しいし、怖い
- ・いつまで居られるのが不安

## 質問あれこれ—愛知県の場合—

インタビュー 小川（編集委員）  
回答者 愛知県防災課

### 1 仮設住宅はいくつ用意してあるの？

仮設住宅の建設については、社団法人プレハブ建築協会と「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」を昭和55年から締結して、協力を得ることとしています。なお、社団法人プレハブでは、建設要請後1ヶ月以内で中部ブロック（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）に約14,000戸の供給を可能としています。

### 2 どんな種類があるの？

1戸あたり29.7㎡（9坪）が基準です（災害救助法より）。構造（例）は次の通りです。

ユニットハウス（例）  
軽量鉄骨造、平屋建て 6帖と4.5帖の2K  
屋根はカラー鉄板で、天井と壁には断熱材入  
風呂はユニットバス  
台所は流し台、コンロ台、換気扇ほか

### 3 ふれあいセンターのようなものはあるの？

同一敷地内等に概ね50戸以上仮設住宅を設置した場合、集会等に利用するための施設を設置できることになっています。

### 4 備品は何が用意されるの？

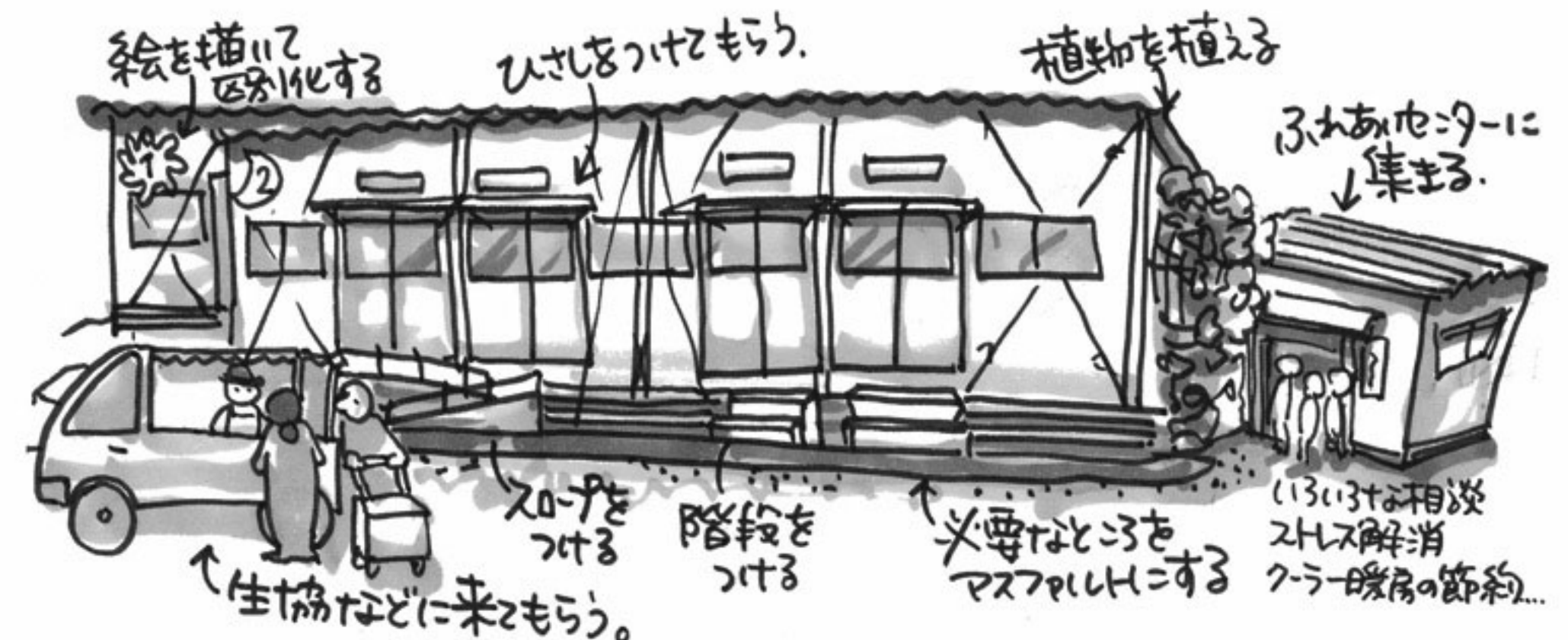
基本的には入居者で用意していただきます。仮設住宅への移動時には、発災後数週間を経ており、市場での購入が可能となっているため。なお発生直後から生活をする避難所では、寝具、被服、日用品等が配布されます。

### 5 どこに建設されるの？

公有地、国有地、企業等の私有地のできる限り住宅地として立地条件の適した場所に建設されます。候補地については、現在行なっている被害予測調査の結果をもとに、地域ごとの応急仮設住宅の必要規模を想定し、今後関係市町村と調整しながら候補地のリストを作っていきます。

### Q どんな風に改善していったの？

いえ、ボランティア共同生活になるので、行政や企業などともまじりあがり、みんなが相談してやりました。



これだけ大変ってわかってるのに先に改善って出来ないのかなあ？

でもさ、きりがいいよ、こういうことって。住めば都っていうじゃない？

けれど実際にそれで精神的に、金銭的につらくて体を壊した人もいますよ。

…すごいむずかしい。

もちろん、どんどん意見を出した方がいいんじゃないかな。

気持ちの持ちようも大切よね。

我慢するとかあきらめるんじゃないよ、みんなで変えていけるって思うことも大切なんじゃないかな。

でも、ボランティアと仲良くなったり新しい友だちができた人もいますから全てが全てマイナスというわけではないよ。



とにかくいろいろ知って、自分なりに対策を練ろうよ！



# 仮設住宅から恒久住宅へ

1995年、阪神・淡路大震災。発生後2ヶ月に満たない3月初めには12万5000戸の復興恒久住宅建設が始まる。「公営住宅」を中心に、公共住宅の大量供給がされていった。

## 復興公営住宅って?

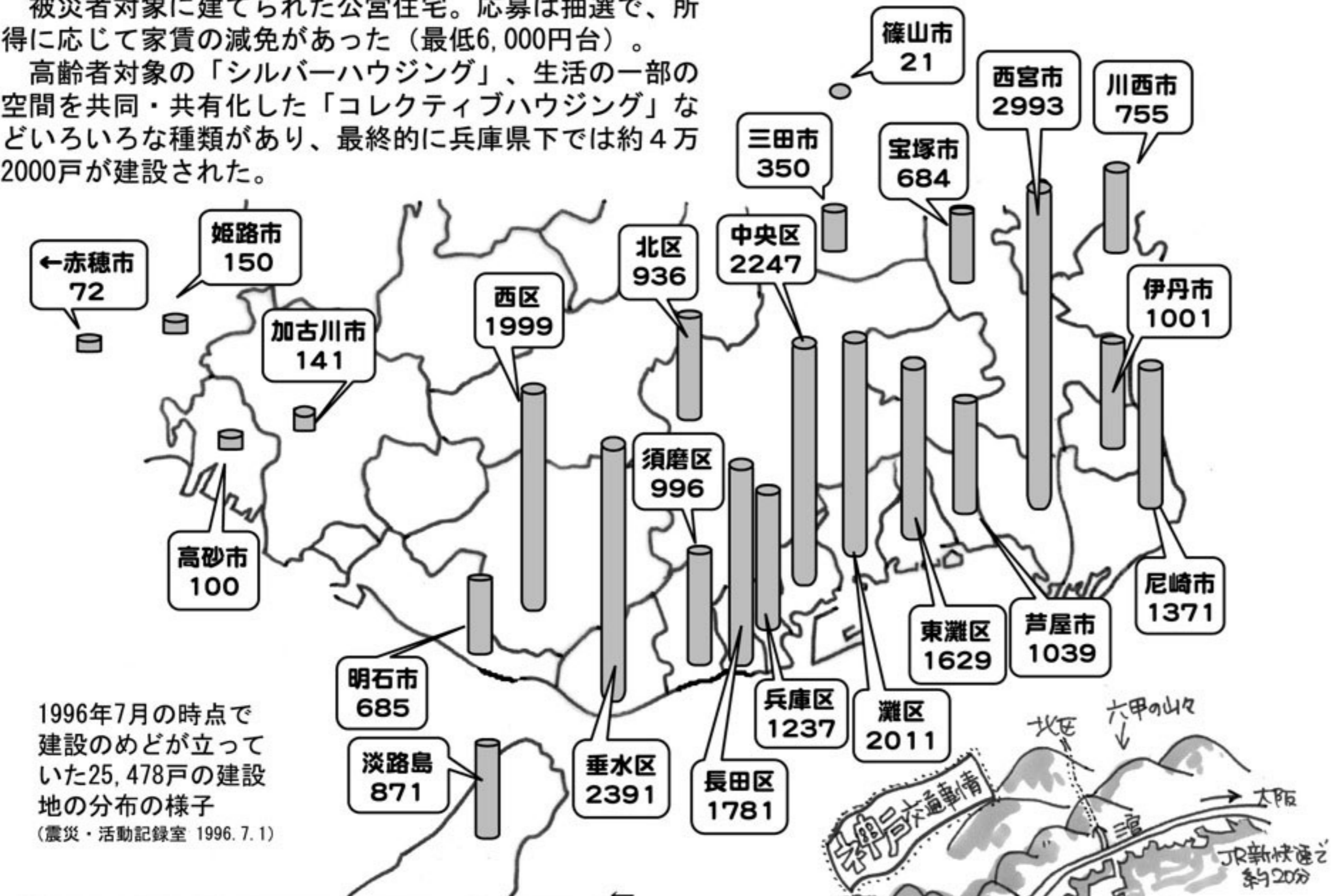
被災者対象に建てられた公営住宅。応募は抽選で、所得に応じて家賃の減免があった(最低6,000円台)。

高齢者対象の「シルバーハウジング」、生活の一部の空間を共同・共有化した「コレクティブハウジング」などいろいろな種類があり、最終的に兵庫県下では約4万2000戸が建設された。

### 兵庫県内の住宅被害

(1998年12月末:兵庫県防災企画課)

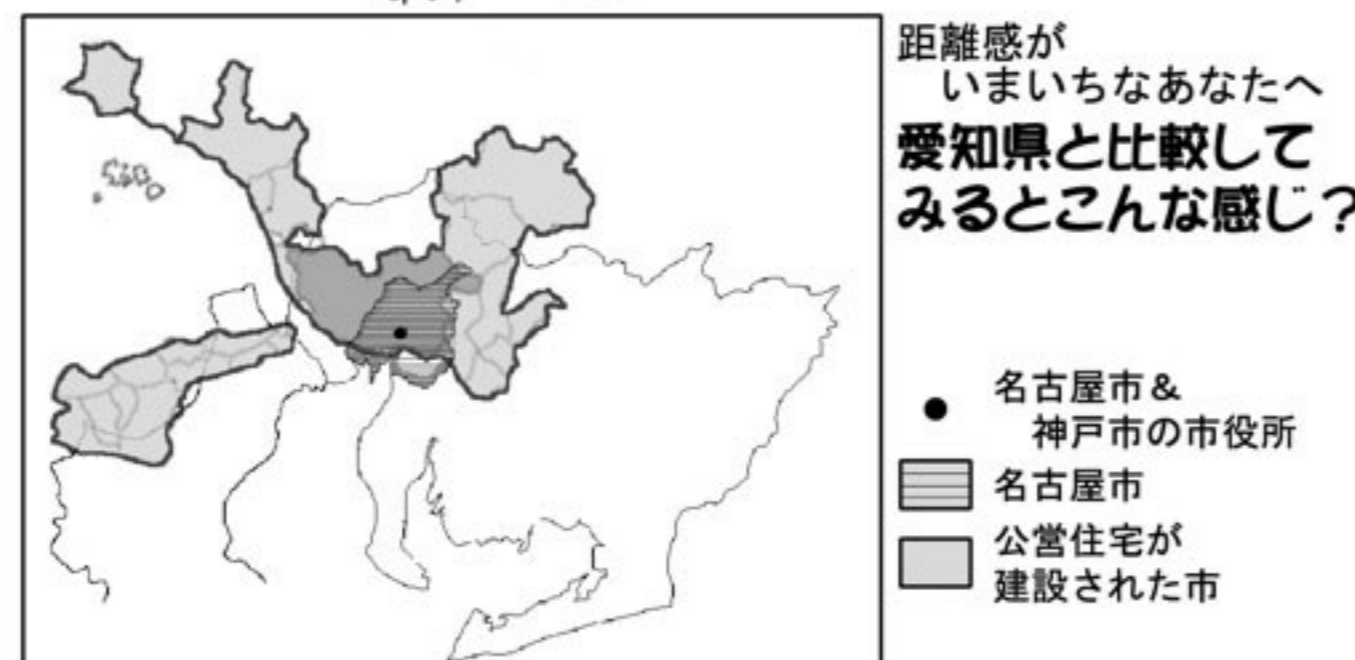
全壊	103,998棟	(178,364世帯)
半壊	136,934棟	(258,799世帯)
全焼	7,119棟	(8,866世帯)
半焼	337棟	(456世帯)



1996年7月の時点で建設のめどが立っていた25,478戸の建設地の分布の様子 (震災・活動記録室 1996.7.1)



1 明石市の魚住中学校近くの復興公営住宅



# 「住まい」を失うことは生活の基盤を失うこと、人々のアイデンティティ(独自性)を失うことだった。

## 被災地に聞きました。

今回はたくさんの方にお話を聞いたり、調べた中で以下の3人の方のお話を抜粋させていただきました。

- どんなことが問題になりましたか?
- 愛知県のみなさんに知っておいて欲しいことはありますか?

**実吉 威さん**  
(市民活動センター神戸事務局長)

### ■入居者優先順位

高齢者や障がい者などが優先的に入居できる優先枠と同様に、仮設住宅入居者にも優先枠が大幅についていた。しかし仮設外の人、高い家賃の負担や、身を寄せている親戚知人宅でのストレスなどを抱え、どちらがより大変とは一概には言えなかった。これによって仮設外の人に疎外感と絶望を与えるとともに、被災の直後は同じ立場だった人々を分断してしまった。

### ■難解な募集要項

170ページを越す難解な募集要項は、独力で読み解くしかなかったが、その難解さは、被災者に説明する行政職員もよく理解できないほどのものだった。そのため、希望していない住宅を分からずに選んでしまう高齢者も多くいた。

### ■被災者の希望と政策のミスマッチ

スロープなど、配慮された住宅なのに応募者が少ない。困っていると言いつつ、何故? 団地の内側は車いす用のスロープなど、高齢者や障害者への配慮が見られるが、一歩団地を出ると側には交通量の激しい幹線道路。ショッピングセンターはあるが下町のような路地や商店街はない。つまり車を使う生活を前提に建てられている。住宅を必要とした人の多くは高齢で、ニーズと政策は明らかにミスマッチを起こしていた。

**有光 るみさん**  
(プロジェクト1-2代表)

### ■高齢者向け住宅の落とし穴

高齢者向けシルバーハウジングなどは、最初の選ぶ条件からすでに高齢者のみが集中する。そのため高齢者のみのコミュニティができあがり、自治会の担い手がいない、地域の既存の自治会と連携ができないなどといった課題が出てきてしまった。お隣の顔が見えなくて心配になっても、誰に相談していいのかわからないと言う。考慮したつもりの特徴が逆に問題をクローズアップさせてしまった。

### ■心構え

抽選のために全く知らない同士が集まる公営住宅。そのため入居当初のコミュニティづくりは非常に大変。中には向こうではこうだったと、以前の自分の地域のやり方を押し通す人も。馴染もう、という気持ちもやはり必要ではないだろうか? 一番の課題は地域との確執。受け入れる側の地域の人、「特別扱い」ではなく、「新しい住人」として普通に受け入れて欲しい。神戸の時はお互いが戸惑っていた。

### ■行政へ提言

一つのルールに全てを当てはめようとしてしまわず、一人ひとりとは言わないが個々への配慮を大切にしたい。

### ■ボランティアへの提言

あくまで「つなぎ役」という立場に徹すること。

**黒田 裕子さん**  
(阪神高齢者・障害者支援ネットワーク副代表)

### ■「鉄の扉」の重み

仮設住宅と違って孤独死や自殺が、高齢の女性に多い。原因はコミュニケーションがとれない、会話する人がいないといったこと。仮設住宅の時トラブルの元だったじりみちを人が歩く音や、隣から聞こえてくる会話が、実は逆に生活を感じさせていた。鉄の扉の向こうはそれを感じさせてくれない。また年を重ねているため入退院が続いたりすると、隣近所も在宅かどうか把握しきれなくなる。そして2ヶ月発見できなかったケースもある。鉄の扉は、プライバシーの保護にはいいが、命との関わりを絶ってしまう。

### ■行政へ提言

仮設住宅のコミュニティをそのまま移行させることが第一条件。高齢者だけにせず30世帯に10世帯は若者をいれ、複合的に。

### ■ボランティアへの提言

地域のMAPづくりから始める。こういったニーズがあるのか把握し、支援していく。仮設住宅も復興住宅もその点では同じ。プライバシーを守りつつ関係性を持つようにする。

### ■選ぶコツ

本当に親しい人を見つけること、そしてその人と一緒にいること。病にあわせて住宅も選ぶこと。心臓が悪いなら坂道のある住宅はさけるなど、自分を把握する。